

平成 26 年 8 月 13 日 作成 坂上和之

平成 27 年 3 月 28 日 修正 坂上和之

## 第 12 回日本加速器学会年会インフォーマルミーティング (ビーム物理研究会世話人会) 議事録 (案)

日時 : 2015 年 8 月 7 日 (金) 12:00 ~ 13:00

会場 : 福井県敦賀市 萬象プラザ 第 1 会議室

出席者 (順不同・敬称略) :

佐藤、鎌田、神野、山本、鷲尾、加藤(政)、山田、宮本、黒川、藤田、想田、佐々木、平、杉本、庄司、柏木、濱、小山、全、黒田、野田、羽島、原田、田村、加藤(新)、菅、中新、井上、坂上

司会 : 中新

書記 : 井上、坂上

配布資料 :

2015F-1 : 前回議事録

議事内容 :

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
  - A. 日本物理学会ビーム物理領域関連
  - B. ビーム物理研究会関連
  - C. 日本加速器学会関連
3. その他
  - 3-1 IUPAP 関連(黒川氏)
  - 3-2 IPAC2016 関連(黒川氏)
  - 3-3 PTEP 関連(黒田氏)
  - 3-4 次回総会・世話人会に関して

## 1 前回議事録確認

2015年3月22日に開催された第70回日本物理学会年次大会インフォーマルミーティング（ビーム物理研究会総会）の議事録（配布資料：2015F-1）について内容確認が行われた。時間的な制約から内容の読み上げは省略されたが、意見・コメントはなく、承認された。

## 2 報告・審議事項

### A. 日本物理学会ビーム物理領域関連

[大会関連]

#### A-1. 一般講演件数の推移

次回2016年大会に向けて、過去8年間における春の物理学会での一般講演数の推移、前2015年大会における他領域との講演数の比較、2015年大会における他領域との合同セッション発表件数の内訳が前回総会資料より引用され報告された。一般講演件数には合同セッションを含む講演件数がカウントされる。2014年大会では78件（合同セッションを除くと55件）であったが、2015年大会では133件（合同セッションを除くと72件）と増加したが、2015年大会は立地が良かったためか全領域において講演数が増加した。各領域中ワースト2位であった。当時領域代表の上坂氏より各機関代表宛に発表数増の依頼メールが功を奏した。領域代表からの発表数増の依頼メールは引き続き行うことが推奨された。

領域2との合同セッションは1年おきに主催を交代しており、次の2016年大会はビーム物理領域が主催となる。（その他の合同セッションは講演申込数が多い領域が主催）

#### A-2. 招待・企画・シンポジウム講演について

次回2016年大会に向けて、2015年大会において実施した招待・企画講演2件（奨励賞講演を含む）、主催合同シンポジウム1件、共催合同シンポジウム1件を実施したことを報告した。

次回2016年大会のシンポジウムとして現時点までに以下1件の提案があり、山田氏より趣旨説明があった。

- 提案者：山田氏/ 立命館大「X線レーザーの小型化について」

## 議論・コメント

### シンポジウム全般に関して

- 提案された方は講演者となることができないため、調整が必要である。
- レーザー関係領域と共同でやったらどうかというコメントがあった。

#### A-3. 2016年春期大会での合同セッションに関して

次回2016年大会のシンポジウムとして昨年度から引き続き6件の合同セッションがある

旨、報告があった。新たな提案を募集中です。(申し込み締切 2015年9月27日)

#### 合同セッション

- SuperKEKB・BelleII・ILC
- J-PARCと原子核素粒子実験(2015年大会は講演なし)
- 高強度レーザー・FEL・放射光
- レーザー・プラズマ加速
- イオントラップ・非中性プラズマ・レーザー冷却
- ミューオン・中性子・陽電子

#### A-4. 若手奨励賞について

2015年度は現在募集中、現在のところ応募はないとのことで、積極的な応募が呼びかけられた。応募締切は8月31日。今年度から審査委員は変更されたとの報告があった。

審査委員：栗木氏(広大：委員長)、横田氏(JAEA)、加藤氏(分子研)、大熊氏(JASRI)、宮本氏(兵庫県立大)、小関氏(KEK)

9月末までに物理学会に審査報告を上げる必要があり、日程に関して懸念があった。来年からはもう少し早めに応募締め切りをして、審査の時間を取った方が良いとの意見があった。

なお、37歳以下の若手研究者が対象となるが、厳密なものではなく判断は各領域の判断に任せるとのこと。ビーム物理領域としては現在2名まで授与可能であり、博士論文も審査の対象となる。受賞人数はビーム物理領域の講演数(過去数年間の平均)によって決まっており、講演数が減ると受賞人数が減る可能性がある。

#### A-5. 今年度大会(秋季・春季)に関して

主なスケジュールが確認された。次回の秋季大会は、素核宇ビが2015年9月25日から28日まで大阪市立大学杉本キャンパスで開催され、物性が9月16日から19日まで関西大学千里山キャンパスで開催される。次期秋季大会では以下のシンポジウム(主催1件・共催2件)・企画講演1件がある。

##### シンポジウム

- 新奇の電子ビーム源とこれをプローブとした物性研究の展開  
ビーム物理・領域10 9月17日 13:30~16:20 AG会場(関西大学)
- 高強度ペタワットレーザーとX線自由電子レーザーを活用したプラズマ科学の展望  
領域2・領域1・ビーム物理 9月18日 9:00~12:30 CN会場(関西大学)
- 国際リニアコライダー計画：実現にむけて

素粒子実験・素粒子論・ビーム物理 9月26日 13:30~16:55 SB会場(大阪市立大学)

企画講演

- BEAST IIによる SuperKEKB 加速器のビームバックグラウンド測定  
中山 浩幸 氏 (KEK 素核研)

素粒子実験・ビーム物理 9月28日 9:00~9:30 SE会場(大阪市立大学)

年次大会は2016年3月19日から22日まで東北学院大学 泉キャンパスで開催される。  
重要な締め切り日は次の通り。

**年次大会締切日**

- **合同セッション申込〆切：2015年9月27日**
- **招待・企画・チュートリアル・シンポジウム講演の〆切：2015年11月5日**
- **一般講演の申込〆切：2015年11月22日**

◇ いずれも Web 受付の場合

[領域運営関連]

A-6. 執行部と事務局の確認

現領域執行部の確認が行われた。

現会長は佐々木氏(広大)、副会長は羽島氏(JAEA)・上坂氏(東大)

ビーム物理領域は代表 佐々木氏(広大)、副代表 羽島氏(JAEA)

A-7. 次期領域運営委員(2016/4~2017/3)について

現領域運営委員の坂上氏(早稲田大)の後任として、大阪大学産業科学研究所の菅晃一氏が紹介され、承認された。任期は2016年4月から2017年3月までの1年間。現在の体制は次のとおり。

期間	領域運営委員
2014/4~2015/3	山本 尚人 (アドバイザー)
2014/10~2015/9	中新 信彦 (現)
2015/4~2016/3	坂上 和之 (現)
2015/10~2016/9	井上 峻介 (引き継ぎ中)
2016/4~2017/3	菅 晃一 (本会で決定)

B. ビーム物理研究会関連

[研究会合関連]

B-1. ビーム物理研究会 2015 について

神野氏（東大）より、今年度ビーム物理研究会及び若手の会の企画状況等について報告がなされた。

- 東大・JAEA・KEK 共催で実行委員を組織し、ビーム物理研究会・若手の会を企画している。
- 日程：2015年11月26日（木）～28日（土）
- 場所：いばらき量子ビーム研究センター、やよい研究員宿舎（若手の会）
- ビーム物理研究会に含まれるテーマとしていろいろなものを挙げ、広い分野からの講演を募集する予定
- やよい研究員宿舎は2000円/泊、40名宿泊可能。
- 若手の会ではCSTのチュートリアルなどが良いのではと考えている（未定）
- 若手の会の発表形式を口頭にする、賞を出すことを検討している。
- 若手の会の発表を本会に組み込むことも考えている。
- HPを現在構築中

#### コメント

- 場所も近いので、ぜひJ-PARC（ハドロン）の方の講演を期待したい。
- 研究会本会は講師という形ではなく、公募するのが本来の形。
- 若手の会の講演を本会に組み込むのは、聴衆も若手である前提。
- ビーム物理研究会の趣旨を明らかにして公募すると非常によい。
- 若手（学生）では口頭発表できる機会が少ないので、ポスターよりも口頭発表でも良いのではないか。

#### [研究会運営関連]

##### B-2. ホームページ運営に関して

HP系の宮本氏（東芝）より、HP運営に関して担当に関して民間企業に移った関係で、HP運営を山本氏（KEK）へ引き継ぐとの説明があった。しばらくは2人体制で行っていく。

##### C. 日本加速器学会関連

特になし。

### 3 その他

#### 3-1. IUPAPにおける加速器物理に関する新しいコミッション（黒川氏）

IUPAPの総会が11月にシンガポールで開催され、米国から加速器物理のコミッションを作ろうという提案があり、動きが起こっている。Advisory Working Groupを作って検討することになっている。ConvenerはRoy Rubinsteinが務めることになっている。様々な機関・

ワーキンググループに手紙が送られ、意見が集められていることの紹介があった。それぞれから数人ワーキンググループメンバーの推薦がなされている。メンバーとして、日本人が1人以上含まれる可能性が高いので、意見を集めて、意思統一しておく必要があると考えている。次回の総会は3年後(現在からは2年半程度後)になる。進展があれば、黒川氏よりメールでの連絡を随時配信する。

### 3-2. IPAC2016(韓国釜山)での Prize に関して(黒川氏)

Prize が4つあり、①Life time achievement 対象、②Big achievement 対象、③若手賞、④若手の若手賞(大学院生・博士取ってすぐの方対象)がある。ぜひ積極的な推薦をいただきたい。

### 3-3. PTEP 関連(黒田氏)

投稿データとして、投稿が1100件程度、掲載決定470件程度といった現状。掲載決定までの期間は平均で Letter : 50日、Paper : 80日程度。支援機関を増やしたく、今回東北大学電子光理学研究センターも支援機関に入ってもらったことでも了承をいただいた。注目論文をピックアップし、宣伝する活動をしている。今回、加速器学会奨励賞の山田氏の論文を注目論文として、宣伝していくことになっている。PTEP では招待論文、特集号などの意見を募集している。

### 3-4. 次回の総会・世話人会について

次回の総会は2016年3月19日(土)から22日(火)に開催される日本物理学会第71回年次大会(東北学院大学)の会期中に行う。世話人会は2016年8月頃に開催される第13回日本加速器学会年会の会期中に行うことが確認された。

以上